

(書式2)

学会参加報告書

提出日 2019 年 4 月 22 日

学籍番号	18PMA20	所属	体育科学研究科 スポーツ教育・健康教育学系
氏名	渡辺 晃		
学会等名 (正式名称)	IUHPE 23rd World Conference on Health Promotion		
開催日程	2019 年 4 月 7 日 ~ 2019 年 4 月 11 日		
開催場所 (国・都市名)	ROTORUA, AOTEAROA NEW ZEALAND		
発表演題名	Characteristics of children' s behavioural reactions to the extreme competitiveness of Japanese society: An investigation based on data related to bullying, long-term absenteeism, schoolyard violence, and suicide		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 国際学会の参加は、初めてであった。印象としては、アジア人の参加が少ないと感じたことが挙げられる。英語やマオリ語、フランス語、スペイン語等の言語を聞き様々な国の人々が参加しているのだと感じた。本学会では、各研究テーマ（ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー、環境と健康等）のセッションで分かれていた。この点は、自分の興味関心のある分野やその分野外の研究者と意見を聞いて大変有意義であった学会と感じた。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 本学会の報告では、『子どものからだと心白書 2018』に掲載されているいじめ、長期欠席、校内暴力、自殺のデータを基に極度に競争主義的な日本社会（教育制度）による子どもの行動反応の特徴を報告した。本研究の結果、1970 年中頃に推進された詰め込み教育で「落ちこぼれ」が出現し、中学校の長期欠席者が増加している様子を窺うことができた。次に 1980 年頃から過激な管理教育がはじまり、中学校の長期欠席者をさらに増加させる様子を窺うことができた。1989 年に改訂された学習指導要領では、ゆとり教育が導入された一方で、新自由主義の潮流により子どもたちの競争意識が高まった。その結果、ゆとり教育のねらいとは裏腹に中学校の長期欠席者数の増加だけでなく、小学校の長期欠席者数、小中学校の校内暴力件数、自殺数も増加し始めた。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 教育制度についての質問や保護者がプレッシャーを与えているのか等の質問があり、保護者もプレッシャーを与えている可能性がある」とコメントした。また、スウェーデンからの参加者の話では「スウェーデンも同じようなことが起きている」ことがわかった。本学会の報告に関しては、英語が不十分な部分があり、伝わり切れなかったが今後の研究に繋がる有意義な機会であった。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。